

佐賀新聞

2010年（平成22年）

1月21日 木曜日

商品の説明を聞く県議会特別委のメンバー
＝鳥栖市の川口スチール工業



県議会特別委が視察 フィルム型太陽電池

佐賀県議会の有明玄海・エネルギー対策特別委員会（未安善徳委員長）は20日、フィルム型太陽電池の新事業を手がける鳥栖市原町の川口スチール工業（川口信弘社長）を視察した。

フィルム型太陽電池は軽量で屋根の補強なしで設置することができる。同社は薄膜太陽電池メーカーと提携して、鋼板に張り付けて工場や倉庫の屋根に設置する商品を開発した。佐賀市のアバンセ屋根に設置する太陽光発電に採用されることが決まっている。

視察したのは未安委員長ら10人。川口社長はガラス基盤の従来型に比べて発電効率は劣るものの、広い屋根を有効利用できることなどを説明、「太陽電池の導入が遅れている産業界向き。スライド式で屋根材に取り付けられる形にしている」と話した。

議員からは耐用年数や投資の回収年数などについて質問が出ていた。この日は木質バイオマス事業を展開する鳥栖環境開発総合センター（宮原敏也社長、同市轟木町）も視察した。

（宇都宮）